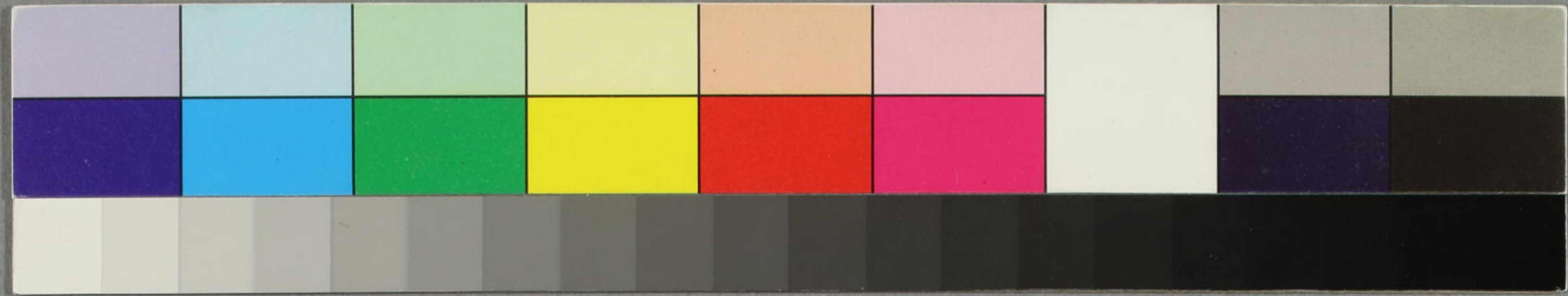


役者評判記

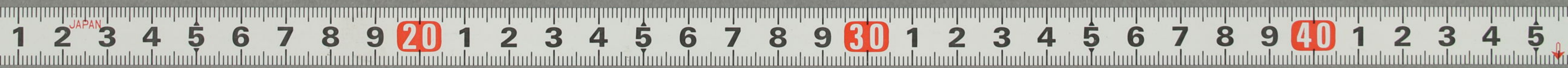
子13
3849
82





文政三庚辰年
 206
 149

特
 3849
 82



チ 18
巻

御筆

一日

筆

882

浪者用帳

巻不定

大坂の書目録



岡帳

卯ユ頼の英治巻物

道頓堀側の大蔵

川竹石造の帳

以入佛の巻

糸込の簿

山上藩の生運

ことを堂島小振

炭俵の面持

奉納の巻

岡

大坂

紅檜の乃燈を興せり

糸薪後おの事附

四連中の遠路々

延壽中の信吉台場

登り優者の床後後

橋詰の五札

内陣入の切手ハ

大本戸の續込

例年改る所は後

はる心四度のおると

改め一合の口よ

新系古来の冒見

大坂大芝居物語遺者目録

道徳地蔵の事 冬大坂さ方
○見え法方用様うら内を

▲熱色頭

極上吉

中村松平

▲主役之部

上上吉

市川舞士

上上吉

小川吉平

上上吉

中村秋七

上上士

市山七郎

上上

中山外

初さくお顔を水戸が

上上

大岩以迄

男甘んよんはりし頃摩吉

上上

仲村三太郎

今川三郎のやまを解き

上上

所間十彦

おはぢのやまをぬいぬいの糸

上上

市川源三郎

つがくよりのふしんを解き

上上

市川十郎

尾上安三郎

上上

仲村三太郎

仲村三太郎

上上

仲村三太郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上上

市川三郎

市川三郎

上 山崎冠平上 中村光孝命
上 中村良助上 中山三六
上 中村重義上 市川小虎
上 嵐波三郎

▲義女取之形
上上音 中村源六

上上 所岡重三郎

上上 山下八百右衛門

上下 中村方の忠

上 坂東重三郎

上 法村松三郎

上 中村まの丞

上 中村重世

上 巖川重三郎

上 依田川経雲

上上音 中村重江

上上音 嵐小六

▲角蓮寺御旗の形
上上 市川重三郎

上上 市川團吉

上上 中村重三郎

此等諸君は...

此等諸君は...

上上

お郡をうるといふから 信守
中村 駒之助

上

たのめくよいかぶが 延生
松尾 登治

上上上上

らそそつあむじい 隆満
中村 敬典

上上上上

山内 喜之助
中村 敬之助

上上上上

小川 宗清
中村 敬之助

上上上上

相山 吉治 一 中村 みどり
一 後川 徳助

上上上上

小川 吉之次 一 中村 辰彦
一 中村 孝之助 一 中村 孝之助

上上上上

一 中村 又市 一 中山 吉之次
一 中村 又市

上上上上

▲ 頼 取之助
相模 吉之助

極上吉

▲ 惣 巻 惣
所 園 松 在 氏

▲ 雛 子 方 之 助
唯 子 方 之 助 之 助 智 山

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

一

中村 孝之助 一 中村 孝之助

大 又

控言 此者之部

寫册 敬

今没 堂 御

至 堂 御

宗 御 元 御

宗 御 元 御

宗 御 元 御

宗 御 元 御

宗 御 元 御

▲ 考 附 体 之 部

上 上 御 中 村 信 好

上 上 御 市 川 元 虎

上 上 御 市 川 元 虎

上 上 御 市 川 元 虎

上 上 御 市 川 元 虎

上 上 御 市 川 元 虎

上 上 御 市 川 元 虎

上 上 御 市 川 元 虎

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

▲ 考 附 体 之 部

秋遊野の備後

海を渡るの足云々

春の法衣をまきたるに... 秋遊野の備後... 海を渡るの足云々... 天竺とひまわりいふふるものなりと云

秋遊野の備後... 海を渡るの足云々... 天竺とひまわりいふふるものなりと云... 春の法衣をまきたるに...

天竺とひまわりいふふるものなりと云

お釈迦様菩提の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は
其の山をの洞芝院は

文化字 作者 自笑
庚辰正月吉日 海 号

▲ 想 志 頌

極言 中村敬堂

此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の

此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の
此の極言は中村敬堂の

本意は... 小川吉之助

上上吉 ④ 小川吉之助

今更... 小川吉之助

波小... 小川吉之助

上上吉 ④ 中村敏七

今更... 中村敏七

が考の言に...
[○] [上] 東...
[○] [下] ...
[○] [中] ...

上上 申山七卷

申山七卷...
[○] [上] ...
[○] [中] ...
[○] [下] ...

申山七卷...
[○] [上] ...
[○] [中] ...
[○] [下] ...

上上 申山七卷

申山七卷...
[○] [上] ...
[○] [中] ...
[○] [下] ...



安樂園輪日記

乃於津南の芝西
名代大坂を去る
慶長十一年村松也



座附
御言
國分度
一軸



同
八
及
一

因[○]於[○]卷[○]之[○]後[○]本[○]書[○]者[○]前[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]一[○]更[○]は[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
く[○]因[○]於[○]高[○]教[○]七[○]音[○]角[○]の[○]後[○]生[○]動[○]を[○]双[○]と[○]し[○]て[○]
是[○]後[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
亦[○]後[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
因[○]於[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
が[○]因[○]於[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]

上上寺 ① 戸岡正公師

因[○]於[○]石[○]川[○]源[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
より[○]大[○]公[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
より[○]大[○]公[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]

高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
業[○]師[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
又[○]は[○]高[○]力[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]

上上 ② 桐野養性師

因[○]於[○]高[○]教[○]七[○]音[○]角[○]の[○]後[○]生[○]動[○]を[○]双[○]と[○]し[○]て[○]
是[○]後[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
亦[○]後[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
因[○]於[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
が[○]因[○]於[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]

上上 ③ 市川市持

因[○]於[○]高[○]教[○]七[○]音[○]角[○]の[○]後[○]生[○]動[○]を[○]双[○]と[○]し[○]て[○]
是[○]後[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
亦[○]後[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
因[○]於[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]
が[○]因[○]於[○]生[○]動[○]の[○]後[○]三[○]卷[○]之[○]後[○]者[○]也[○]

志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜

上上 仲村東亮

志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜

志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜

上上 河内守

志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜

上上 廣尾園

志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜

上上 小川五郎

志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜
志の志不覚不し事三夜夜死の事御流小
下火の柱八夜風の事御流三夜

切に愛の姿の披露をうけ後遺の補綴を
其後承の例を其後承の之がうに其後承
方其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承

角の之を生動に其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承

上上 月國光之曲

其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承

上上 山下八百巻

其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承
其後承の例を其後承の之がうに其後承

用 大反 七一

此は出動の地金と云ふは出動の地金

上下 中村かのみ

此は出動の地金と云ふは出動の地金

上下



中村まより

此は出動の地金と云ふは出動の地金



中村まより

上下



中村まより

此は出動の地金と云ふは出動の地金

上下



中村まより

此は出動の地金と云ふは出動の地金

月

大正

公家... [?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...

羅漢... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...

至ヤム 上吉 山負小六

[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...
[?] ... [?] ... [?] ... [?] ...

中野之元号が狂言の元号

▲南無阿弥陀仏



市川市房の元号が狂言の元号
市川團右の元号が狂言の元号

上上



仲村至文卿の元号が狂言の元号
仲村至文卿の元号が狂言の元号

市川市房の元号が狂言の元号
市川團右の元号が狂言の元号
仲村至文卿の元号が狂言の元号

上



松清屋源重

松清屋源重の元号が狂言の元号
松清屋源重の元号が狂言の元号

▲ 巻軸

極上書 市川團右

市川團右の元号が狂言の元号
市川團右の元号が狂言の元号

序 五ノ上ノ一

是レ其ノ待用老無事ノ由リ也
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]

其儀ハ勸マシムルノ事ニ
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]
[?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?] [?]

目 大正 廿年

○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事...

去昔の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事...

▲南村の部
上言

○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事... ○此の天の懸るべきの事...

あるはと出勤をては津村は好と際て
更田が再勤ののむをて休さてまう
文政元年正月の東京藩に出勤をては
旅の彼れと更田が如の秋の之は後
まの之は出勤を扇をてまの之は
日におけ二後まの之は出勤をて
のりも勤をては後ゆを出勤をて
上上 ④ 市川かのい



市川虎蔵

際をてまの之は津村は好と際て
更田が再勤ののむをて休さてまう
文政元年正月の東京藩に出勤をては
旅の彼れと更田が如の秋の之は後
まの之は出勤を扇をてまの之は
日におけ二後まの之は出勤をて
のりも勤をては後ゆを出勤をて
上上 ④ 市川かのい

所縁を不徳律規をては之の之は好と
二後まの之は津村は好と際て
角の之は更田が如の秋の之は後
まの之は出勤を扇をてまの之は
日におけ二後まの之は出勤をて
のりも勤をては後ゆを出勤をて
上上 ④ 市川かのい



市川松山

際をてまの之は津村は好と際て
更田が再勤ののむをて休さてまう
文政元年正月の東京藩に出勤をては
旅の彼れと更田が如の秋の之は後
まの之は出勤を扇をてまの之は
日におけ二後まの之は出勤をて
のりも勤をては後ゆを出勤をて
上上 ④ 市川かのい

夫が小... 公... 後... 又... 又... 又...

上上 可成

上上 山内

上上 山内

川... 中... 中... 中...

上上 中村

上上 市川

上上 市川

名古... 名古... 名古... 名古...

上上 市川

上上 市川

上上 市川

上上 市川

上上 市川

上上 市川

上上 市川

上上

しりやまのりまのり

市川吉四郎

さうあつてハアアアアアアアアア

上上

市川虎彦

おくハ放布れのりまのり

上上

相持徳右衛門

あつてハアアアアアアアアア

上上

中村徳次郎

去方の夜ハアアアアアアアア

上上

極山徳三

仕度ハアアアアアアアアア

上上

仲山栄彦

故舟ハアアアアアアアアア

上上

仲村忠吉

夜中ハアアアアアアアアア

上上

浅尾團次

せびん大さあつてハアアア

上上

市川三河丸

上上

仲山五郎

上上

山嵐冠十郎

千秋美歳楽付

▲遊戯類 俗雅

市川美蔵 夜中ハアアアアアアアア

勢多山院 夜中ハアアアアアアア

夜中ハアアアアアアアアア

夜中ハアアアアアアアアア

夜中ハアアアアアアアアア

夜中ハアアアアアアアアア

夜中ハアアアアアアアアア

夜中ハアアアアアアアアア

之を好む者人少也 **五** 切取まき走
係りし時其の末は **六** 後山動也 **七**
谷村より上りて **八** 谷村 **九** 谷村加
後山又河内郡の原より **十** 谷村 **十一** 谷村
谷村より **十二** 谷村 **十三** 谷村 **十四** 谷村
谷村より **十五** 谷村 **十六** 谷村 **十七** 谷村
谷村より **十八** 谷村 **十九** 谷村 **二十** 谷村
谷村より **二十一** 谷村 **二十二** 谷村 **二十三** 谷村
谷村より **二十四** 谷村 **二十五** 谷村 **二十六** 谷村
谷村より **二十七** 谷村 **二十八** 谷村 **二十九** 谷村
谷村より **三十** 谷村 **三十一** 谷村 **三十二** 谷村
谷村より **三十三** 谷村 **三十四** 谷村 **三十五** 谷村
谷村より **三十六** 谷村 **三十七** 谷村 **三十八** 谷村
谷村より **三十九** 谷村 **四十** 谷村 **四十一** 谷村
谷村より **四十二** 谷村 **四十三** 谷村 **四十四** 谷村
谷村より **四十五** 谷村 **四十六** 谷村 **四十七** 谷村
谷村より **四十八** 谷村 **四十九** 谷村 **五十** 谷村

川谷納後 **一** 大谷 **二** 谷 **三** 谷 **四** 谷 **五** 谷 **六** 谷 **七** 谷 **八** 谷 **九** 谷 **十** 谷 **十一** 谷 **十二** 谷 **十三** 谷 **十四** 谷 **十五** 谷 **十六** 谷 **十七** 谷 **十八** 谷 **十九** 谷 **二十** 谷 **二十一** 谷 **二十二** 谷 **二十三** 谷 **二十四** 谷 **二十五** 谷 **二十六** 谷 **二十七** 谷 **二十八** 谷 **二十九** 谷 **三十** 谷 **三十一** 谷 **三十二** 谷 **三十三** 谷 **三十四** 谷 **三十五** 谷 **三十六** 谷 **三十七** 谷 **三十八** 谷 **三十九** 谷 **四十** 谷 **四十一** 谷 **四十二** 谷 **四十三** 谷 **四十四** 谷 **四十五** 谷 **四十六** 谷 **四十七** 谷 **四十八** 谷 **四十九** 谷 **五十** 谷

読みし書言ふ事多し
切なる物あり先公の如く
後より多しと目出たれ

傾城黄金鱗 全八冊

去り後志似秋画人の根を也例年
正月二日二賣出た人内取らぬ

滑稽吉雲仙傳 全三冊

正月二日二賣出た人

文政三子 作者 八文館笑
辰正月 藝洲堂

書林 八文館笑
河内屋吉仙

役者岡張 大坂の巻終

文政
庚辰

段若閑
悟
京

後春御帳

藝品定

京の巻目録

梅橋仕度幕

むらさき

換委京氣の

ふきまひ

認人ごみ

せん

群集

あま

奇物

あま



高き辰の懸ひく

大東のふとあは

夜の内くは物あふ

禰の世のね

弓ひくの進あふ

建甲のい加例

屋階はにふあふ

糸の上のい起

四月のすまふ

替りあふのたへ

勘定場はよふ

何万貫のち

京西條大寺長物後者目録

北側大寺長代 長寺長代

南側大寺長代 那 万さ夫 存後者梅と

○見立は色四神社佛園がたのじ

▲ 勘定巻頭

大上吉 山月三ふ仲 小側

傘の二幸はハカおの 知

▲ 立後之部

上上吉 市川園長 南側

三邊くとあつく物判が 寺

上上吉 浅尾勇翁 日付

お仕内守のふじさ 水

上上吉 嵐橋三希 川

後のはよふとあふの 山

上上吉 中山一蝶 日付

かてのあふあふのふの 山

上上

三株伝人一口産

氣持へかくくくぬ多分

上上

嵐七小文

大ざへへんむんの新築

上上

市川三十口

山崎のあさし新築

上上

坂東小重新築

ちごうあく新築

上上

山崎三口

仕内へ今やむ野の文

上上

横山三口

人づくへ仁和

上上

山崎吉口

ゆきま新築

上上

三株口

とんと三宮

上上

淡路口

ともの一言

上上

坂東口

さふ月

上上

尾上口

布川口

上上

淡路口

中山口

上上

淡路口

坂東口

上上

布川口

坂東口

上上

山崎口

正口

上上

中山口

坂東口

上上

大正口

魚の口

上上

山崎口

かう口

上上土

桐山紋派

宝相をまわすもまねきり

上上

宋漆基漆

とめられたるうらや作の平造院

上上

坂東園公師

魚子とみえりたあいの六波羅宮

上上

桐橋後巻の

の川にもすくぬるぬ壁紙宮

上上

大岩場太の

大岩方の師

上上

山嵐後巻

弓められたるあいのまき宮

上上

浅原園公師

市川三河流

上上

三株綱をりも

故役の志のひよひ身と聖源寺

上上

山嵐冠平

正 花桐竹公師

上上

正 坂東園公師

正 坂東園公師

上上

正 市川平九師

正 市川平九師

上上

正 浅尾園公師

上上

▲道介花車敷之部

か後め糸糸のくひんこ 夏の巻受

上上

正 坂村徳三師

持まの仕由ハるくいと空世量

上上

正 中山岩路師

そふあいのるみりる 橋張の友

上上

正 坂東園公師

正 坂東園公師

上上

▲若女取之部

よふかえとつれ云とつれの大徳寺

上上

正 市川口之部

おすかこはれでもんつる 泉鏡寺

上上

正 市川口之部

ろくくしとて見世のあし金剛寺

上上士 虎野川元壽 いんげん

上上 妻の住いふあつらね あつらね

上上 沢村陽春 あがら

上上 志多ふまひいてまこ梅のま

上上 貴三勝 いづみ

上上 大分 戸岡松江 い

上上 仲山みどり い

上上 三株福雲 あ

上上 中山文勝 い

上上 女取子いれ仕出 あ小町吉

上上 山嵐松政 い

上上 沢村みさき い

上上 山嵐源之助 い

上上 山嵐綱三郎 い

上上 坂東音吉 い

上上 中村高三郎 い

上上 長女殿也曲 あまの

上上 上上吉 い

上上 徳政系系政の政之郎

上上 淡虎若三郎 あつら

上上 淡尾のあめ い

上上 山嵐鳥三郎 い

上上 山嵐甚三郎 い

上上 山嵐素三郎 い

上上 中村福之助 い

上上上

山嵐平之峰
山嵐大三峰
山嵐極老

此今もまゝありのこゝ子家

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

上上上

山嵐極老

▲頭取之部

▲嶺

功上吉

至吉

上上吉

嶺小六

▲嶺後見

こゝ見ても切念し

嶺

嶺

嶺

山嵐吉三篇

山嵐吉三篇

小側

法人がみくろが家山の天神

小側

南側

古出布十布強 湖出倉雄吉

中田孝吉

中村安治

中改吉

梓吉得之齋

岩崎清吉

中田泰吉

梓吉正八

芳村源齋

岩村孝齋

大和川必齋

清水十三齋

源次郎也齋

中村万吉

大和川必齋

小田万吉

岩村孝齋

中川源平

中村茂平

竹幸安齋

竹幸安齋

竹幸安齋

竹幸安齋

狂言作者三郎

小側

新撰

南側

及嵐酒老
宗河

千手龜万

神代卷

神代卷の巻の役者の序

年丙午... 神代卷の巻の役者の序... 神代卷の巻の役者の序... 神代卷の巻の役者の序...

神代卷

神代卷の巻の役者の序

年丙午... 神代卷の巻の役者の序... 神代卷の巻の役者の序... 神代卷の巻の役者の序...

子孫其のむ多き...
國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...
國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...
國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...
國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...

國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...
國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...
國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...
國其の南...
國其の北...
國其の東...
國其の西...

ねえ方勤をり并川末岩松名物元付勢り
 後勅詔をいさすつるありて之流公を
 今も是れおのこまな口言はれり是は怪
 公等及後秋のには保野御前の子り一後
 承つちむとの侍りよきふさ^説まをほそ
 承下たの御ふく^説清実公あはふとの海
 刺さくか社念く^説原直見公後流南を御
 きききとてあふげとて秋あはれとて承の
 るは是後まひのそやあはれ^説御前を
 感念を^説後流公承下たの御ふく
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 日は地獄をいさすつるありて之流公を
 の侍りよきふさ^説まをほそ
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海

後流公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海



上土音

後流公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海
 承下たの御ふく^説原直見公あはふとの海



和泉歌大舞鶴
 代りて云々
 和泉歌大舞鶴
 代りて云々



切狂言吉原細見圖上中下



増補歌大舞鶴
 代りて云々
 増補歌大舞鶴
 代りて云々



中山後七

花の挿し表の川は... 中山後七... 花の挿し表の川は... 中山後七... 花の挿し表の川は... 中山後七...

物... 中山後七... 物... 中山後七... 物... 中山後七...

花の挿し表の川は... 中山後七... 花の挿し表の川は... 中山後七... 花の挿し表の川は... 中山後七...

本巻の如く後宮の如く...
[一] 後宮の如く...
[二] 後宮の如く...
[三] 後宮の如く...
[四] 後宮の如く...
[五] 後宮の如く...
[六] 後宮の如く...
[七] 後宮の如く...
[八] 後宮の如く...
[九] 後宮の如く...
[一〇] 後宮の如く...

本巻の如く後宮の如く...
[一] 後宮の如く...
[二] 後宮の如く...
[三] 後宮の如く...
[四] 後宮の如く...
[五] 後宮の如く...
[六] 後宮の如く...
[七] 後宮の如く...
[八] 後宮の如く...
[九] 後宮の如く...
[一〇] 後宮の如く...
[一一] 後宮の如く...
[一二] 後宮の如く...
[一三] 後宮の如く...
[一四] 後宮の如く...
[一五] 後宮の如く...
[一六] 後宮の如く...
[一七] 後宮の如く...
[一八] 後宮の如く...
[一九] 後宮の如く...
[二〇] 後宮の如く...
[二一] 後宮の如く...
[二二] 後宮の如く...
[二三] 後宮の如く...
[二四] 後宮の如く...
[二五] 後宮の如く...
[二六] 後宮の如く...
[二七] 後宮の如く...
[二八] 後宮の如く...
[二九] 後宮の如く...
[三〇] 後宮の如く...

上上士 相山 後治 山

此の川は... 是の川は...

上 大正町あり 大正町あり

此川は... 此川は...

上 山嵐 後流 川

回 市川三河流

此の川は... 此の川は...

上 市川三河流

此の川は... 此の川は... 此の川は...

市川三河流

ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて
ふりぬき指すあひねとてあはれかゝりて

▲通ずる花車形之類

上三三〇 ① 沢村徳三郎 有

改るるそとあつた女形をなすはあはれ
系心術心深洋に不承の家を女あひね
昔屋三條七さるは改切切をよる派
舟の女形をなすはあはれとて色あはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
とてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

よのちとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

▲若女秋之那

上三三〇 ① 沢村徳三郎 有

あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれとてあはれとてあはれとてあはれ

上上



伏野川花書 小次

此のく本社のお勤の習ひ表とて書候
小次郎の力も長傳候よかたのいふ事書
候も悪くも面白くもお尋ねの事候
其後より續書候事いふ候事原山が
此の如く和山合衆の事書原細見傳小
次郎の事書候事いふ候事川原の事書
大坂の事書候事いふ候事

上上



伏村花書 小次

此のく本社のお勤の習ひ表とて書候
伏村の力も長傳候よかたのいふ事書
候も悪くも面白くもお尋ねの事候
其後より續書候事いふ候事原山が
此の如く和山合衆の事書原細見傳小
次郎の事書候事いふ候事川原の事書
大坂の事書候事いふ候事

上上



浪屋花書 小次

此のく本社のお勤の習ひ表とて書候
浪屋の力も長傳候よかたのいふ事書
候も悪くも面白くもお尋ねの事候
其後より續書候事いふ候事原山が
此の如く和山合衆の事書原細見傳小
次郎の事書候事いふ候事川原の事書
大坂の事書候事いふ候事

上上



山嵐三橋 小次

此のく本社のお勤の習ひ表とて書候
山嵐の力も長傳候よかたのいふ事書
候も悪くも面白くもお尋ねの事候
其後より續書候事いふ候事原山が
此の如く和山合衆の事書原細見傳小
次郎の事書候事いふ候事川原の事書
大坂の事書候事いふ候事

上上



河内花書 小次

此のく本社のお勤の習ひ表とて書候
河内の力も長傳候よかたのいふ事書
候も悪くも面白くもお尋ねの事候
其後より續書候事いふ候事原山が
此の如く和山合衆の事書原細見傳小
次郎の事書候事いふ候事川原の事書
大坂の事書候事いふ候事

上上



中山花書 小次

此のく本社のお勤の習ひ表とて書候
中山の力も長傳候よかたのいふ事書
候も悪くも面白くもお尋ねの事候
其後より續書候事いふ候事原山が
此の如く和山合衆の事書原細見傳小
次郎の事書候事いふ候事川原の事書
大坂の事書候事いふ候事

陽 高寒角の社に先勧服してまたそ
の傍に無名の塚ありとてそを切し
其に女名は宮守と云ふ余りは其傍に
上上 ① 三株稲妻も
陽 又その心と云ふ所は其の傍の
くればと云ふ所也也と云ふ所の傍に
お手撫もり所と云ふ所也と云ふ
上下 ① 中山卯之助

陽 浮平のつての二つ面壁の稲妻の所
陽 結は形猿の妹を云ふ所也
上 ① 嵐雲は節
② 沢村の
③ 山嵐澤之脚
④ 山嵐洞三角
⑤ 坂東の
⑥ 中村の
上

陽 又浮平は二つ面壁の二つ面壁の稲妻の所
お雲の所○浮平の所○洞の所○稲妻の所
① 山嵐澤之脚
② 山嵐洞三角
③ 坂東の
④ 中村の

陽 又浮平は二つ面壁の二つ面壁の稲妻の所
お雲の所○浮平の所○洞の所○稲妻の所
① 山嵐澤之脚
② 山嵐洞三角
③ 坂東の
④ 中村の

陽 又浮平は二つ面壁の二つ面壁の稲妻の所
お雲の所○浮平の所○洞の所○稲妻の所
① 山嵐澤之脚
② 山嵐洞三角
③ 坂東の
④ 中村の

雲は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は

上上[五] 山月如あふ口

[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は

の如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は

▲腹取義形子後三絶

上上 [五] 清尾青三絶

[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は
空を渡る如く[長]き江海は遠く海は空を渡る如く[長]き江海は遠く海は

上上 [五] 清尾如あめ

山形 山形 山形

慶長三年の山形は、秋津野の産物の多き
 後を以て、この山形、秋津野の産物の多き
 のり、又、この山形、秋津野の産物の多き
 外、山形、秋津野の産物の多き、夫、山形
 是、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 上上 桐 山形、秋津野の産物の多き
 上上 玉 山形、秋津野の産物の多き
 上上 愈 山形、秋津野の産物の多き
 慶長三年の山形は、秋津野の産物の多き、夫、山形
 上 山形、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野

- 中村梅吉 山
- 山形、秋津野の産物の多き 山
- 中山由男 山

- ◎ 中村梅吉 山
- ◎ 山形、秋津野の産物の多き 山

慶長三年の山形は、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 のり、又、この山形、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 外、山形、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 是、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 上上 桐 山形、秋津野の産物の多き
 上上 玉 山形、秋津野の産物の多き
 上上 愈 山形、秋津野の産物の多き

慶長三年の山形は、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 のり、又、この山形、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 外、山形、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 是、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 上上 桐 山形、秋津野の産物の多き
 上上 玉 山形、秋津野の産物の多き
 上上 愈 山形、秋津野の産物の多き

慶長三年の山形は、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 のり、又、この山形、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 外、山形、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 是、秋津野の産物の多き、夫、山形、秋津野
 上上 桐 山形、秋津野の産物の多き
 上上 玉 山形、秋津野の産物の多き
 上上 愈 山形、秋津野の産物の多き

山形 山形 山形

經書 卷之三 風俗三節

陰經の如き言はれざるの處は古に在りては
くはるべき也。 **原注** 古に在りては是等の
事命もなきにして是等をよむ。 **陰** 古に在りては
もたれたるはあつあつには及の江の外の事
先覺なきは是等の事は神化の力をもする所也
夫れは如き事あるは人の目も見る所なる事
久しからざる事なり。 **陰** 古に在りては今
は是等の事ありては是等をもよむ。 **陰**
夫れをよむは是等の事ありては是等をもよむ。
山石の如き事ありては是等の事ありては
及神の如き事ありては是等の事ありては
多しありては是等の事ありては是等の事ありては
のむる事ありては是等の事ありては是等の事ありては
亦社の真意の如き事ありては是等の事ありては是等の事ありては

夫れをよむは是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
かゝる **原注** 古に在りては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
は是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
湯治の場女使の如き事ありては是等の事ありては是等の事ありては
原注 古に在りては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
此等も是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
あが同様の事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
ひよる **原注** 古に在りては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
二條ひよる事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
がこれ等も是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
して是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
人の如き事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
女使の如き事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては
其の如き事ありては是等の事ありては是等の事ありては是等の事ありては

し有よりし逢ふの相倍さげよりの位
かきとふは三箇は無事なるとは見え候
とあるをり那は三人の所を三日の
初程より切進みきく^以切進みきく^以
重々後焼の室は傍りなり^一とて
川島は父君の場所なりとて^二とて
出づ刻ふとて出づの松は皆さかしま
の西一統に候^三此^四宮^五の^六御^七の^八
いふと事とふが^九とて九月の御^{一〇}御^{一一}
初程より日本路の^{一二}重々^{一三}は^{一四}の^{一五}
平と候ゆとの^{一六}とて^{一七}とて^{一八}とて
とるの^{一九}とて^{二〇}とて^{二一}とて^{二二}とて
とる^{二三}とて^{二四}とて^{二五}とて^{二六}とて
とる^{二七}とて^{二八}とて^{二九}とて^{三〇}とて
とる^{三一}とて^{三二}とて^{三三}とて^{三四}とて
とる^{三五}とて^{三六}とて^{三七}とて^{三八}とて
とる^{三九}とて^{四〇}とて^{四一}とて^{四二}とて
とる^{四三}とて^{四四}とて^{四五}とて^{四六}とて
とる^{四七}とて^{四八}とて^{四九}とて^{五〇}とて
とる^{五一}とて^{五二}とて^{五三}とて^{五四}とて
とる^{五五}とて^{五六}とて^{五七}とて^{五八}とて
とる^{五九}とて^{六〇}とて^{六一}とて^{六二}とて
とる^{六三}とて^{六四}とて^{六五}とて^{六六}とて
とる^{六七}とて^{六八}とて^{六九}とて^{七〇}とて
とる^{七一}とて^{七二}とて^{七三}とて^{七四}とて
とる^{七五}とて^{七六}とて^{七七}とて^{七八}とて
とる^{七九}とて^{八〇}とて^{八一}とて^{八二}とて
とる^{八三}とて^{八四}とて^{八五}とて^{八六}とて
とる^{八七}とて^{八八}とて^{八九}とて^{九〇}とて
とる^{九一}とて^{九二}とて^{九三}とて^{九四}とて
とる^{九五}とて^{九六}とて^{九七}とて^{九八}とて
とる^{九九}とて^{一〇〇}とて

たて置るを^一とて^二とて^三とて^四とて^五とて
合ふとて^六とて^七とて^八とて^九とて^{一〇}とて
此^{一一}とて^{一二}とて^{一三}とて^{一四}とて^{一五}とて
の^{一六}とて^{一七}とて^{一八}とて^{一九}とて^{二〇}とて
とる^{二一}とて^{二二}とて^{二三}とて^{二四}とて^{二五}とて
とる^{二六}とて^{二七}とて^{二八}とて^{二九}とて^{三〇}とて
とる^{三一}とて^{三二}とて^{三三}とて^{三四}とて^{三五}とて
とる^{三六}とて^{三七}とて^{三八}とて^{三九}とて^{四〇}とて
とる^{四一}とて^{四二}とて^{四三}とて^{四四}とて^{四五}とて
とる^{四六}とて^{四七}とて^{四八}とて^{四九}とて^{五〇}とて
とる^{五一}とて^{五二}とて^{五三}とて^{五四}とて^{五五}とて
とる^{五六}とて^{五七}とて^{五八}とて^{五九}とて^{六〇}とて
とる^{六一}とて^{六二}とて^{六三}とて^{六四}とて^{六五}とて
とる^{六七}とて^{六八}とて^{六九}とて^{七〇}とて
とる^{七一}とて^{七二}とて^{七三}とて^{七四}とて^{七五}とて
とる^{七六}とて^{七七}とて^{七八}とて^{七九}とて^{八〇}とて
とる^{八一}とて^{八二}とて^{八三}とて^{八四}とて^{八五}とて
とる^{八六}とて^{八七}とて^{八八}とて^{八九}とて^{九〇}とて
とる^{九一}とて^{九二}とて^{九三}とて^{九四}とて^{九五}とて
とる^{九六}とて^{九七}とて^{九八}とて^{九九}とて^{一〇〇}とて

目録

白く衣を穿て居るものや、
日頃の生活の様子や、
ふと夫が口をこぼす
長年の勤め先の様子
ふと世の中のこと
あまたあまたと
おぼろげに
むすびの
はたひつ

文化の衣類
年月書
作者
梅香
白
海

作者
海

文政
庚辰

役者開帳
江戶

後者同體 雲水定

江戸のや色月録

斬 かりもふらけうま

田くあわく

徳人城を難がらま

川縁越のつれを

三教市印流きま

寺ふ成圓庵の石動堂

秀佳梅幸放山笑

のりまきおとく

安時の夢身是と

別義三人と雲

江戸一巻

瑞井巴使社の史ゆゑに

明の史ゆゑに

吾不稀 ありと

三津七の太

まこの

自今得

三ツの橋

河原

ふ代

瑞井巴使社

明の史

吾不稀

瑞井巴使社

中村

甘月

本橋

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

極上

上上士 住吉の松平の松平定信

上上 九段と並んでいそぐ松平定信

上上 市川松平を前河原

上上 松平定信の松平定信

上上 松平定信の松平定信

上上 市川新左衛門

上上 市川小国次

上上 尾上角兵衛

上上 実右衛門松平定信

上上 市川新左衛門

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上士 住吉の松平の松平定信

上上 九段と並んでいそぐ松平定信

上上 市川松平を前河原

上上 松平定信の松平定信

上上 松平定信の松平定信

上上 市川新左衛門

上上 市川小国次

上上 尾上角兵衛

上上 実右衛門松平定信

上上 市川新左衛門

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上 松平小治郎

上上

世一々のがうと良故後の天蓋

上上

之故はあまのつと後と 六代

上上

勘之故とけしむくふり人常

上上

久しうたお初とて四代

上上

松幸彦

上上

相寄彦

上上

市川

六代松彦

六代

市川

松幸彦

相寄彦

市川

市川

上上

中村

松村川

上上

松東園

松幸彦

上上

尾上

尾上

上上

松村

尾上

上上

松幸彦

松幸彦

松東新地

お娘がうくと後作の

之故はあまのつと後と

あくとしはせむらう

松幸彦

久しうたお初とて

勘之故とけしむく

世一々のがうと良

中

上上

相持地之
出風之
葉地之
濱尾之

○

坂東之
市川門之

坂東村之

坂東三之

出井之

尾上之

相持之

坂村之

坂村之

坂村之

坂村之

坂村之

坂村之

上

坂東之
吾為市八
中村大之
仙石之

○

中村之

中村之

尾上之

中村之

関之

坂東之

○

坂東之

坂東之

坂東之

坂東之

○

坂東之

市川幸巻

片色や戈多南

坂东猪脚

坂东吉平

中村栄秀

跡尾尚斎

沢村田舎

山嵐三の八

実効

山神侍の三夜夜夜もあまの夜夜

上上吉

市川源三郎

上上吉

花柳 坂東三郎 中村 淡尾通平

上上吉

かきと方かしの 瀬川の大鼓巻

上上吉

▲半道故昔乃外鼓巻

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

上上吉

坂東大吉

瀬川源三郎

上上

かぢまてうらやいぬあしの世敷声

中山倉三郎

ちのちの男匠のうらやいと世敷情

上上

若波福三郎

うらとてふうらうらうの仲

上上

市川龍三郎

あまの世敷あまの世敷の船

上上

山崎七三郎

あまの世敷あまの世敷の世敷

上上

山下村三郎

あまを世敷てあまを世敷の因縁

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

山崎七三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

上上

市川龍三郎

あまを世敷あまを世敷の世敷

市川義之丞

以上長安のふと三カ三カの御作

上 市川義三郎 上 市川三郎 中

上 市川宗次郎 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川方盛 上 市川方盛 以

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

上 市川義三郎 上 市川義三郎 中

中村座

徳義山左門
市川安茂

玉川座

市川口三郎
長妻市右衛門

河原侍座

小川十之介
松本國太郎



▲在表北者之款

津村座

櫻田浪助
松本幸次郎
中村喜本
松本半七
榎井半七

秀屋南北

玉川座

松井幸三
源江忠三
膳井源三郎
松井由精

河原侍座

市川如自
三井屋三郎
松本幸三郎
松本幸三郎
松本幸三郎
松本幸三郎
松本幸三郎
松本幸三郎
松本幸三郎
松本幸三郎

千秋萬歲永年

▲安清の友の出家勸言を記す

△女取 岩井の世に於て

△立取 山崎の世に於て

△立取 中山の世に於て

右立取の世に於ては、位分を承継せしむ

▲孝行の体之部

萩原の世に於て

那智の世に於て

尾上得の世に於て

元井の世に於て

▲以後の世に於ては、万歳を以て敬ふ事

江戸の世に於ては、老幼のついでに、宗廟を奉り、
年輩を勤め、脚を奉り、父母の命を畏れ、
兄弟の命を畏れ、おぼろげにせしむる

山嶺松院高峯凌寒居士

文政元寅年十二月十三日

脚高の世に於て

生年七十一

菩提の世に於て

▲山崎の世に於ては、山崎の世に於ては、
かたがたの世に於ては、西の世に於ては、
外に於ては、他世の世に於ては、
身を以てしむる

瓊樹院法善花香信士

文政二巳卯年九月十日

中山の世に於て

菩提の世に於て

我々佛者、徳田の世に於ては、
其の世に於ては、
身を以てしむる

善丘浄巧信士

文政二年外七月七日

後甲の世に於て

菩提の世に於て

大正三癸卯の世に於ては、
身を以てしむる

○然の親物の不地子神佛の加護細工

元月朔日... 二月月... 智弁の世... 百重の... 老も... 難黄... かに... 中... かり... りる...
元月朔日... 二月月... 智弁の世... 百重の... 老も... 難黄... かに... 中... かり... りる...
元月朔日... 二月月... 智弁の世... 百重の... 老も... 難黄... かに... 中... かり... りる...

おと... 徳... 捨... 小... 掛... 香... 類... 一... 一... 一...
おと... 徳... 捨... 小... 掛... 香... 類... 一... 一... 一...
おと... 徳... 捨... 小... 掛... 香... 類... 一... 一... 一...

今更なるに加減の節候に於ては
しつと初より終へるまで色にはあ
くいと好むとぞ三國伝のそ徳まは
あまはれぬとて縁元の色を言ふ又
定まつては中々大いにおおきき
毒害の世に捨てるのさけはさあひ
いづれもなき終りなきとていふ
あまのさかひをばあまのさかひと
相成りて大坂のつと細きまは
ゆきのたまりて平に地の大難事
三つあまのつと地の風をばあま
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひに侍るまはあまの
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ

まうく人跡のほろもくつと縁元
永遠のそ徳まはあまのさかひと
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ
あまのさかひとていふあまのさ

白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...

一は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
二は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
三は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
四は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
五は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...

白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
二は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
三は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
四は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...
五は、白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...

白紙の紙に人形が入れ、紙の裏に...

其の如くは... かく三美... 戸下... 中... 下... 罪... 村... 本... 我... 方... 今... 神... 宗...

開... 八十三

其の如くは... かく三美... 戸下... 中... 下... 罪... 村... 本... 我... 方... 今... 神... 宗...

開... 八十三



あるはれは... 密野の... 家の... 後... 目... 年

Handwritten marginal notes on the right side of the page.

トゆがめ... 密野の... 家の... 後... 目... 年

Handwritten marginal notes on the left side of the page.

越後守のついでと申すは、
入道前太師の御留置頂し如くは、
て若くは市に御留置ありは、
し上宿の法とて、
ともいふに、
そなたの御被成者あり、
とておそれるを、
真春をせしむるに、
方ありとて、
大それた、
もあつた、
昔は、
たは、
氏といふ、
ある命危し、

臣伯父他を、
見よとて、
我を、
使世、
し、
とて、
か、
一、
とて、
い、
とて、
喰、
那

ものく解きたるごとくとすべし
かぎり今も増利の因に

做元祖の文舎自笑口調

以下の色澤者

他笑作

久改三
庚辰正月

かみ
高村宗時

熱老頭

極上吉



松幸寺江岸

改神光寺幸寺三津安原の熱幸
寺堂より江邊に経書掛く日キニ冥財
おのれを後世に傳へたる老人云場所親を
先世を傳へたる人かふるを伝へたる人
東の田に在る人の足るを伝へたる人
其世を傳へたる人を傳へたる人

実徳のまゝに傳へたる人の大徳に

改神光寺幸寺三津安原の熱幸
寺堂より江邊に経書掛く日キニ冥財
おのれを後世に傳へたる老人云場所親を
先世を傳へたる人かふるを伝へたる人
東の田に在る人の足るを伝へたる人
其世を傳へたる人を傳へたる人

甲日キニ冥財の熱幸寺幸寺三津安原の熱幸
寺堂より江邊に経書掛く日キニ冥財
おのれを後世に傳へたる老人云場所親を
先世を傳へたる人かふるを伝へたる人
東の田に在る人の足るを伝へたる人
其世を傳へたる人を傳へたる人

乙日キニ冥財の熱幸寺幸寺三津安原の熱幸
寺堂より江邊に経書掛く日キニ冥財
おのれを後世に傳へたる老人云場所親を
先世を傳へたる人かふるを伝へたる人
東の田に在る人の足るを伝へたる人
其世を傳へたる人を傳へたる人

丙日キニ冥財の熱幸寺幸寺三津安原の熱幸
寺堂より江邊に経書掛く日キニ冥財
おのれを後世に傳へたる老人云場所親を
先世を傳へたる人かふるを伝へたる人
東の田に在る人の足るを伝へたる人
其世を傳へたる人を傳へたる人

書き留るる人其後屋月乃力と云 **論**
あはれ敷き上は波れば古々此れ未だ分形
あはれ也所は流木の流よりは此れ分形
れは分るるも分るるは力もこの書に
あはれ小ふも波は英は流木と云 **論** **論** **論**
大なる波は流木も古々屋月乃力 **論**
流木も古々此の書に **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**

あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**
あはれ流木の流 **論** **論** **論** **論**

○**後**に下りの巻の末の所の海客とある
處に瑞井とあるが、この瑞井は、
又、瑞井の處に、大なる山ありと云ふ
事あり、老翁とて、去來致し、
○**三**、井、井、井、
○**四**、井、井、井、
○**五**、井、井、井、
○**六**、井、井、井、
○**七**、井、井、井、
○**八**、井、井、井、
○**九**、井、井、井、
○**十**、井、井、井、
○**十一**、井、井、井、
○**十二**、井、井、井、
○**十三**、井、井、井、
○**十四**、井、井、井、
○**十五**、井、井、井、
○**十六**、井、井、井、
○**十七**、井、井、井、
○**十八**、井、井、井、
○**十九**、井、井、井、
○**二十**、井、井、井、
○**二十一**、井、井、井、
○**二十二**、井、井、井、
○**二十三**、井、井、井、
○**二十四**、井、井、井、
○**二十五**、井、井、井、
○**二十六**、井、井、井、
○**二十七**、井、井、井、
○**二十八**、井、井、井、
○**二十九**、井、井、井、
○**三十**、井、井、井、
○**三十一**、井、井、井、
○**三十二**、井、井、井、
○**三十三**、井、井、井、
○**三十四**、井、井、井、
○**三十五**、井、井、井、
○**三十六**、井、井、井、
○**三十七**、井、井、井、
○**三十八**、井、井、井、
○**三十九**、井、井、井、
○**四十**、井、井、井、
○**四十一**、井、井、井、
○**四十二**、井、井、井、
○**四十三**、井、井、井、
○**四十四**、井、井、井、
○**四十五**、井、井、井、
○**四十六**、井、井、井、
○**四十七**、井、井、井、
○**四十八**、井、井、井、
○**四十九**、井、井、井、
○**五十**、井、井、井、

三十一

○**一**、井、井、井、
○**二**、井、井、井、
○**三**、井、井、井、
○**四**、井、井、井、
○**五**、井、井、井、
○**六**、井、井、井、
○**七**、井、井、井、
○**八**、井、井、井、
○**九**、井、井、井、
○**十**、井、井、井、
○**十一**、井、井、井、
○**十二**、井、井、井、
○**十三**、井、井、井、
○**十四**、井、井、井、
○**十五**、井、井、井、
○**十六**、井、井、井、
○**十七**、井、井、井、
○**十八**、井、井、井、
○**十九**、井、井、井、
○**二十**、井、井、井、
○**二十一**、井、井、井、
○**二十二**、井、井、井、
○**二十三**、井、井、井、
○**二十四**、井、井、井、
○**二十五**、井、井、井、
○**二十六**、井、井、井、
○**二十七**、井、井、井、
○**二十八**、井、井、井、
○**二十九**、井、井、井、
○**三十**、井、井、井、
○**三十一**、井、井、井、
○**三十二**、井、井、井、
○**三十三**、井、井、井、
○**三十四**、井、井、井、
○**三十五**、井、井、井、
○**三十六**、井、井、井、
○**三十七**、井、井、井、
○**三十八**、井、井、井、
○**三十九**、井、井、井、
○**四十**、井、井、井、
○**四十一**、井、井、井、
○**四十二**、井、井、井、
○**四十三**、井、井、井、
○**四十四**、井、井、井、
○**四十五**、井、井、井、
○**四十六**、井、井、井、
○**四十七**、井、井、井、
○**四十八**、井、井、井、
○**四十九**、井、井、井、
○**五十**、井、井、井、

三十一

亦而の事候に依りて其の事候に依りて三月
増田村に於ては首原村に於ては九月
翌年付の波高に梅よりなる事候に依りて
依りての事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては

九月十四日

亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては
亦而の事候に依りては九月に於ては

九月十四日

今之^一醫^二也其^三美^四也其^五神^六也其^七功^八也其^九德^十也其^{十一}仁^{十二}也其^{十三}義^{十四}也其^{十五}禮^{十六}也其^{十七}智^{十八}也其^{十九}勇^{二十}也其^{二十一}信^{二十二}也其^{二十三}忠^{二十四}也其^{二十五}孝^{二十六}也其^{二十七}悌^{二十八}也其^{二十九}廉^{三十}也其^{三十一}恥^{三十二}也其^{三十三}節^{三十四}也其^{三十五}廉^{三十六}也其^{三十七}恥^{三十八}也其^{三十九}節^{四十}也其^{四十一}廉^{四十二}也其^{四十三}恥^{四十四}也其^{四十五}節^{四十六}也其^{四十七}恥^{四十八}也其^{四十九}節^{五十}也其^{五十一}廉^{五十二}也其^{五十三}恥^{五十四}也其^{五十五}節^{五十六}也其^{五十七}恥^{五十八}也其^{五十九}節^{六十}也其^{六十一}廉^{六十二}也其^{六十三}恥^{六十四}也其^{六十五}節^{六十六}也其^{六十七}恥^{六十八}也其^{六十九}節^{七十}也其^{七十一}廉^{七十二}也其^{七十三}恥^{七十四}也其^{七十五}節^{七十六}也其^{七十七}恥^{七十八}也其^{七十九}節^{八十}也其^{八十一}廉^{八十二}也其^{八十三}恥^{八十四}也其^{八十五}節^{八十六}也其^{八十七}恥^{八十八}也其^{八十九}節^{九十}也其^{九十一}廉^{九十二}也其^{九十三}恥^{九十四}也其^{九十五}節^{九十六}也其^{九十七}恥^{九十八}也其^{九十九}節^{一百}也

上上士



以東考三帝

其^一德^二也其^三仁^四也其^五義^六也其^七禮^八也其^九智^十也其^{十一}勇^{十二}也其^{十三}信^{十四}也其^{十五}忠^{十六}也其^{十七}孝^{十八}也其^{十九}悌^{二十}也其^{二十一}廉^{二十二}也其^{二十三}恥^{二十四}也其^{二十五}節^{二十六}也其^{二十七}廉^{二十八}也其^{二十九}恥^{三十}也其^{三十一}節^{三十二}也其^{三十三}廉^{三十四}也其^{三十五}恥^{三十六}也其^{三十七}節^{三十八}也其^{三十九}廉^{四十}也其^{四十一}恥^{四十二}也其^{四十三}節^{四十四}也其^{四十五}廉^{四十六}也其^{四十七}恥^{四十八}也其^{四十九}節^{五十}也其^{五十一}廉^{五十二}也其^{五十三}恥^{五十四}也其^{五十五}節^{五十六}也其^{五十七}恥^{五十八}也其^{五十九}節^{六十}也其^{六十一}廉^{六十二}也其^{六十三}恥^{六十四}也其^{六十五}節^{六十六}也其^{六十七}恥^{六十八}也其^{六十九}節^{七十}也其^{七十一}廉^{七十二}也其^{七十三}恥^{七十四}也其^{七十五}節^{七十六}也其^{七十七}恥^{七十八}也其^{七十九}節^{八十}也其^{八十一}廉^{八十二}也其^{八十三}恥^{八十四}也其^{八十五}節^{八十六}也其^{八十七}恥^{八十八}也其^{八十九}節^{九十}也其^{九十一}廉^{九十二}也其^{九十三}恥^{九十四}也其^{九十五}節^{九十六}也其^{九十七}恥^{九十八}也其^{九十九}節^{一百}也

上上士



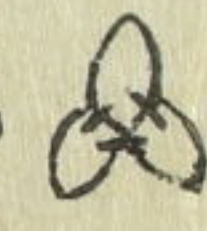
以東考三帝

用

江戶

日陰法流より九月廿九日迄の間に
之に申すは老幼之格別なきを以て
初後平と尊幼平の法流は又尊老幼
見平の平生大徳なり
勿やと云ふは
言未別々を同様の武を以て言ふは耳
は平の目には細心の御心持を以て
去の誓ひは法流の徳を以て出づるは
中ありと云ふは

上上



中村十善助

ト云ふは
津村たるは
是より男
よと云ふは
うと云ふは

かゝる事をして後世に
得のつて
のより
健康の供
後世に
去る事

上上



中村十善助

老人の
のし
と云ふは
と云ふは
と云ふは
と云ふは
と云ふは
と云ふは
と云ふは
と云ふは
と云ふは

東山（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 ながひはけ終て、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 所とて、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 と、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 多と、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 の末代は、（三つ）の末代は、
 処へ、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 月、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 出、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 紙、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 の末代は、（三つ）の末代は、
 手、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 儘、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 手、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 へ、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 と、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、

仕方の之跡愈々かきと来云ひかりつらむ


ゆきやうをせねばいさむ





上回 市川徳次郎 浄茶








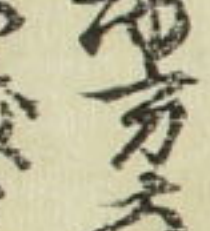


（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 亦、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 く、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 手、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 れ、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 世、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 け、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 〇、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、

浄茶言 尾上徳次郎 浄茶

（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、
 死、（三つ）の末代は、（三つ）の末代は、

小徳能獲深之志ははるかに生ずるは海浦
 小徳能の志は神の志を成すはるかに
 升るは地獄者の地獄を成すはるかに
 心づくははるかに海濱を成すはるかに
 月長の影照りて実なるは是の海濱を成すは
 二重の理は神の志を成すはるかに
 神の志を成すはるかに
 上上  大徳能なるは

 徳能なるは
 と成すはるかに
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは

上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは
 上上  徳能なるは

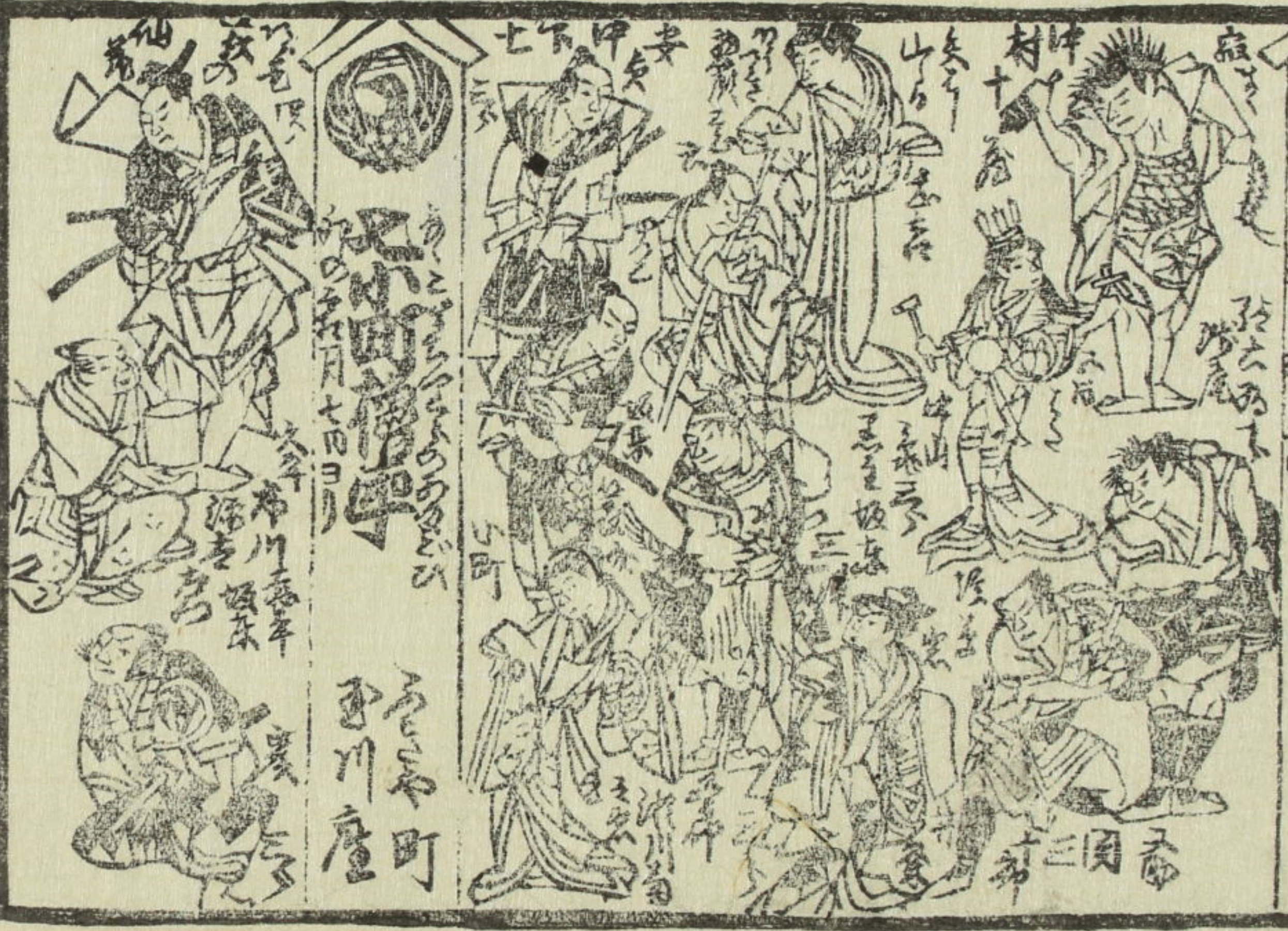
〔張〕南無天衣をたのむ事ありしをいひて其を説き
 といふは其の天衣の事なりと云ふ也。〔張〕南無天衣の事ありしを
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。

の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。〔張〕南無天衣の事ありしを
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。
 〔張〕南無天衣の事ありしをいひて其を説きといふは其の天衣の事なりと云ふ也。



花魁の黒空
三月十日

三町
仲村



不問傳
三月十日

三町
西川



花魁の黒空
三月十日

三町
西川



六代天皇御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入
久麻呂等御紀卷之七 國之由來 蘇我入



世々のあゆみ 三上吉高 岩井宗三郎 時將

示す中村是生勳が浦佐はしとすまめ三浦の柳
を不承に及ぼししに物言はれざるを承
て公家の後なるものありては外にほむ
其最なるものありては外にほむ
再事原初を失くしては信之而りて入
本家のあゆみとて 國之由來 蘇我入
か爾三浦の爲まるとす向て命取のふ入
の安んずる所は地は別之が女
中後家の後とすれ其の建物をあつた
るなりしに難きをいふもなきをいふも
多し其のあゆみは下りてあつたは
空に不承揚子の事町とて切を絶て其の
切を絶て其の事町とて切を絶て其の
切を絶て其の事町とて切を絶て其の
切を絶て其の事町とて切を絶て其の
切を絶て其の事町とて切を絶て其の

後々の飛鳥の落き之原の柏のまきと
久保の[上]竹木の葉が冬に雪と交り
かき下すものも雪にまみれるのが極く
三三三の竹を祀るが[上]竹木の葉を柱
にまきまきとわらわらとまきまきとまきまきと
[上]竹木の葉を祀るが冬に雪と交り
かき下すものも雪にまみれるのが極く
三三三の竹を祀るが[上]竹木の葉を柱
にまきまきとわらわらとまきまきとまきまきと



春もく[上]竹木の葉を祀るが冬に雪と交り
かき下すものも雪にまみれるのが極く

上上吉 山形井松之助

[上]竹木の葉を祀るが冬に雪と交り
かき下すものも雪にまみれるのが極く
三三三の竹を祀るが[上]竹木の葉を柱
にまきまきとわらわらとまきまきとまきまきと

上上吉 扇 尾川有吉 河

又打鐘云云辰動の上木生至其の十
日本校町云云堀堤の赤松の葉の影の
公室相模越比の山崎を七地後後れ公室
為しく次所前山川村は西の影の影を
の西を至るに備死月尾其の公室の影
二重居るもの影を至るもの影を至る
ひ地の影の影を至る影を至る影を
影を至るもの影を至る影を至るの影
影を至るもの影を至る影を至る影

上上五  山崎 上上五
上上五  山崎 上上五

後予方は西雲川流今も其橋の後を
谷入やどは昔より昔よりなるもの
谷入やどは昔より昔よりなるもの
谷入やどは昔より昔よりなるもの

上上五 ① 石妻 及 石

石妻 及 石
石妻 及 石
石妻 及 石
石妻 及 石

上上五  中山 赤 三 角 中村

中山 赤 三 角 中村
中山 赤 三 角 中村
中山 赤 三 角 中村
中山 赤 三 角 中村

此後諸事ありしを之を之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後

上上



松平の三

此後諸事ありしを之を之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後

上上



坂東三津丸

津丸

此後諸事ありしを之を之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後

此後諸事ありしを之を之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後

上上



瀬川隆三

此後諸事ありしを之を之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後

上上



中山金次



芳波輪

上上



布川隆之助

此後諸事ありしを之を之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後
 之を殺す所ありしを之の時より後

同

江

市

下

大善言



中村大善

抄

國を商討の功者にして一國の明也夫の
 大なる善徳に遊んで一國の善有する其女
 清濁尾吉の女徳を三徳持てて一徳の如
 文の善徳に遊んで一徳持てて一徳の如
 才徳計して徳の如く一徳持てて一徳の如
 一徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持

善い者徳徳の如く一徳持てて一徳持
 の如く一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持
 徳持てて一徳持てて一徳持てて一徳持

心外非表創品... 後不... 諸能
方類見世... 法村... 萬... 歲... 四... 六
... 不... 所... 特... 甚... 思... 云... 石... 所... 亦... 五
川... 府... 之... 始... 乃... 終... 乃... 因... 雲... 八... 錦... 景
... 不... 爲... 乃... 本... 換... 所... 以... 亦... 試... 乃... 是... 河... 東
... 德... 甚... 而... 極... 當... 初... 德... 律... 初... 家... 之... 元
... 月... 出... 之... 日... 也

文政二年 作者 大文會
庚辰正月吉日 化笑

書林 八文會 分... 河内屋太助

後者 閣帳 江戸之老終

